

だ ろ い あ ぐ

東京彩人記

医師や歯科医が、体の仕組みや病気を教える子供のための医学教室「とうきょうキッズメディカルスクール」(TKM、武蔵野市吉祥寺南町)はスタートから5年がたった。医師の澤田めぐみさん(51)が、自身の息子とその友だちを相手に始めた教室には現在、50人が通う。遠くは千葉や名古屋からも通ってくるという。

【岡礼子】

——なぜ、医学教室を開いたのですか。

医学は普通、医療に携わる人しか学びません。医大を卒業して勤務医として働き始めた頃から、「もっといないなあ」と思っていたんです。患者さんの話を聞いて、体の仕組みを正しく知らないために損をしてしていると感じることが多かったのです……。もっと多くの人が医学の基礎を学べたらいいと思って始めました。

——損とは？

高血圧なのに「血圧の薬を飲み始めると、癖になっ

い込んで、治療を先延ばしにしてしまう人がいます。

——なぜ子供に？

ちょうど息子が小学生で、理科の授業が始まる頃だったので、まずは自宅で、息子とその友だちに教え始

澤田めぐみさん(51)

とうきょうキッズメディカル
スクール代表理事

医学を学ぶきっかけに

めました。病気になってからだと、つい耳に心地よい情報を聞きたいと思ってしまう。病気とは縁遠いうちに、ニュートラルな状態で学んでほしいと思いました。理科の内容は私の(子供の)頃からあまり変わっていませんが、今は、もつ

液の秘密、心臓の仕組み、呼吸の不思議と続きます。1カ月に1回90分で1年間。終わりの方では、がんの話や、薬はなぜ効くかといった内容も入れています。小学校3〜6年生向けですが、今年度から1年生を終えた子供向けにアドバン

ない。根の形が全部違わない。確認させます。2月は人体模型を使って、内視鏡を食道や胃に入れる実習をします。友人の外科医や産婦人科医、心療内科医に頼んで講師役になってもらい、医療機器などはメーカーから借りています。

といるいろいろなことが分かるようになってきているので、系統だてて教えたかったです。

——どのようなカリキュラムですか。

まず、体験教室で心臓の話をして。身近で大事な臓器ですから。その後、血

スト(上級)コースを始めたので、中学生も来ています。——実習もあると聞きました。

呼吸の回は、酸素分子や酸素原子の話もします。子供たちに空気の絵を描かせると、雲みたいに描くんです。その後、私が立方体の中に窒素と酸素の粒が散らばっている絵を描いて、「こ



さわだ・めぐみ 1963年、神奈川県出身。東京医科歯科大卒。内科医。一般社団法人メッドラーニング代表理事。TKMで、みたかソーシャル&コミュニティビジネスプランコンペティション2010最優秀賞などを受賞。「医師に聞けないあんな疑問が解きたいこんな誤解」(メディカルトリビューン社)を今春以降に出版予定。

の粒が飛び交っているんだよ」と説明します。100%理解できなくても、後で調べてみようとか、知りたかと思うきっかけになってくれればいいと考えています。

——他分野の教室も開いていますね。

しばらく貸し会議室で教室を開いていたのですが、模型などを置いておく場所が必要で、今の場所にスペースを借りました。TKM以外の時間に空けておくのはもったいないので、子供向けに専門家が教える法律や英語の教室を開いてもらっています。

記者の一言

90分といえば、大学の講義と同じだ。小学生には長いと思うが、みんな集中しているという。子供のころに学んだことは意外に覚えているものだ。専門家が教えてくれるのも心強い。付き添いの親も、大人になってからはなかなか学べない基礎をおさらいできる。子供の教育に一役買ってくれたい。